

初秋とは云え、誠に残暑厳しき折柄、宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部会員の皆様には
恙なくお過ごしのことと拝察する次第です。

先月は又もや北朝鮮のミサイル発射事案が生じ、「Jアラートが作動しなかった」とか「何処
に避難すれば良いのか判らない」とか緊迫感に欠ける国民のコメントが流れましたが、一体この
国は本気で国民の生命や財産を守る気があるのか、そして国民は自らの生活を全うするため
に本気で国土防衛を考えているのか、本当に不安になります。

国民が弱腰の政府の尻を叩き、国防方針を変更させた例など世界の歴史を紐解けば、恐らく
枚挙に暇無く出てくるはずで、我が国も先ずは憲法改正から着手せねばなりません。

ところで8月は、迷走台風5号に追い立てられるように成田に向かい、前後約10日間ほど英国
スコットランドを旅して、70年近い歴史と伝統を誇る「ロイヤル・エディンバラ・ミリタリー・タトゥー」
を13日に参観し、大いに感動してきたところです。

今年初めて陸自中央音楽隊が参加し、分列行進曲の「抜刀隊」のメロディーがエディンバラ城
内から聞こえたときには何故か鳥肌が立ち、目頭が熱くなりました。

このイベントにご興味のある方はVTRやパンフレットなど有りますので、是非ご来社下さい。

帰国した翌日は宮崎県護国神社にて終戦記念慰霊祭に参加し、大東亜戦争の戦陣や戦禍に
斃られた300万を超えるご英霊に対し、哀悼の誠を捧げました。

また27日は毎年恒例の「富士総火演」見学のため御殿場へ出向き、陸自最大の実弾演習を
見学していたところ、テレビ朝日のクルーが私にカメラを向けてインタビューを依頼されたので、
全国放送に顔が映り過激なコメントでは「炎上」するかもと思い、丁重に謝絶した次第です。(笑)

さて今月も小川先生のメルマガから抜粋した一文を転載しますので、何卒ご一読下さい。

・これが本物の自由と民主主義

8月10日配信号で「8月ジャーナリズム」について書きましたが、今回は続編です。

17日、こんなニュースが流れました。

「サッカーJ3のFC琉球が19日に沖縄県沖縄市で開く『全島サッカー1万人祭り2017』で予定してい
た陸上自衛隊車両の展示について、同球団は中止することを決めた。15日に公式ホームページ
で発表した。陸自の装備が同県内の駐屯地外で一般公開されるのは初めてだったが、それこそ

異例といえる『撤回』の決定についてFC琉球は『県内関係各所からの意見に配慮した』としている。沖縄の県民や組織・団体の一部には“自衛隊アレルギー”がなおも根強いという現実を浮き彫りにした。

自衛隊沖縄地方協力本部によると、公開を予定していた陸自の車両は(1)03式中距離地对空誘導弾(2)82式指揮通信車(3)軽装甲機動車(4)73式小型トラックの4台。『1万人祭り』の場外スペースで『はたらく車大集合！』と銘打って警察、消防の車両とともに展示される運びだった。(中略)

今回の陸自車両の公開については、ともにFC琉球の『メディアパートナー』である『琉球新報』『沖縄タイムス』の両県紙が15日、県サッカー協会や県教職員組合に『反対』『疑問』の声が上がっていることを指摘して報道した。

FC琉球は同日、賛否双方の意見が電話で寄せられたとして急転直下中止を決め、自衛隊沖縄地方協力本部に通知したという。警察、消防の車両は予定通り展示される。(後略) (8月17日付産経新聞)

これを見ながら、**米国との落差**を思わずにはいられませんでした。

例えば米国の場合、ワシントンの**連邦議会議事堂前**の広場いっばいに**米軍が兵器**を展示して、一般の市民はもとより子どもたちにまで自由に触らせています。

日本でいえば、国会議事堂前に陸海空自衛隊の兵器を展示するようなものです。

ロサンゼルス近郊のパサデナで数年前、**大統領専用のリムジン**の後部座席に女性と子どもに限って**座らせている**のに出くわしました。このときは、大統領が西海岸にきたときに使うリムジンでしたが、消防署のオープンハウスに大統領を警護する**シークレットサービス**が展示していたのです。

ワシントンには有名な**スミソニアン**の**航空宇宙博物館**(ワシントン中心部の本館とダレス国際空港に隣接した別館)があります。私も数回、足を運んだことがあります。日本との違いは歴然としていました。

広島に原爆を投下した「**エノラ・ゲイ**」(B-29戦略爆撃機)もあれば、スペースシャトルも展示されています。日本には現存しない**帝国陸海軍の航空機**を見ることもできます。

これが全て**無料**。そして**子どもたちのグループ**が目につくのです。それも小学生くらいの子どもたちが引率者なしでできています。そして、ノートをとったり、めいめいが戦争や平和について、**子どもたちなりに語り合っている**のです。

その様子を見ながら思いました。この中から、アイゼンハワー大統領やマッカーサー元帥のような軍人も出るかもしれないが、その一方、世界的な**平和運動のリーダー**や**宗教家**、世界を動かす**研究者**も出るかもしれない…。

イデオロギー的な左右を問わず、戦争と平和に関する日本の議論は空論に終わりがちです。それに対して、米国の議論が地についているのは、戦争や平和を**考える材料が身近**にあり、触ることさえできるという、**自由と民主主義に関するスタートライン**の違いだと痛感せずにはいられませんでした。

「8月ジャーナリズム」も結構ですから、マスコミの皆さんには足もとから戦争と平和を考えると**いう視点**で、日本の議論が**空論から抜け出す道筋**を探ってほしいと思います。以上

日本の8月のテレビや新聞などのマスコミは、戦争の悲惨さや愚かしさを再確認させるためかサイパンや硫黄島陥落に続く本土空襲、そして6月沖縄の凄惨な地上戦、最後に広島、長崎の原爆投下と繰り返し、繰り返し報道し続けます。

北朝鮮からは連日のように日本海や日本上空を飛び越えるミサイルが発射され続け、韓国は「慰安婦騒動」が終息しそうな気配を感じると今度は「徴用工」を蒸し返し、中国も相変わらず東シナ海や南シナ海で跳梁跋扈する中、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」の憲法前文が、何と空虚に響くような気がするのは私だけなのかも知れません。

沖縄の地を死守するために玉砕した牛島中将を始めとする10万前後の第32軍の将兵や、知覧や鹿屋、そして赤江飛行場から飛び立った5000名近い陸海の特攻隊及び、護衛機もなく片道燃料で沖縄に向かった戦艦大和には3000名を超える水兵が乗艦していたはずです。

そんな人達の思いを心に浮かべながら、8/15の正午は国技館方面に正体し心静かに1分間の黙祷を、参加者の皆様と一緒に行いました。

10月は長崎や茨城で防衛協会青年部会の九州大会や全国大会が予定されており、詳細は同封書類に記載されていますので、参加希望者は早めにご回答賜れば幸いです。

暑さ寒さも彼岸まで、秋もすぐそこです。皆様呉々もご自愛専一にお過ごし下さい。

平成29年9月1日

宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦